

2026年8月27日

各 位

株式会社 大垣共立銀行

金融庁「F i n T e c h実証実験ハブ」支援案件 「トークン化預金の銀行間決済」検証への参加

大垣共立銀行（頭取 林 敬治）は、2026年4月3日に採択され、検証が開始されている金融庁「F i n T e c h実証実験ハブ」の支援案件「トークン化預金の銀行間決済」（以下、「本実証」）にオブザーバーとして参加したことをお知らせします。

トークン化預金（Tokenized Deposit、以下「TD」）やステーブルコイン（Stablecoin、以下「SC」）など、ブロックチェーン技術を活用した新しいオンチェーン（※）での決済は、グローバルで急速に社会浸透しています。その際に論点となるのがマルチバンク対応です。例えば、複数の銀行が預金をトークン化し、銀行間をまたいでユーザーがTDを移転できるようになると、その銀行間決済の方法が論点となり、「TDの銀行間決済」の実現が不可欠となります。

本実証では、「オンチェーンでのユーザー間取引は、その銀行間決済もオンチェーンで完結させる」ことを主眼に、検証を開始しています。すなわち、複数銀行にまたがるユーザー間でのTDの送金にかかる銀行間決済を、オンチェーンで行う方法です。24時間365日、全ての取引をRTGS（Real-Time Gross Settlement：即時グロス決済）にすることで、新たなビジネス機会の創出や、決済コスト・決済リスクの低減などができるか、その適法性、有用性、実現性などの観点から検証を開始しました。

検証する実現方式は主に2つです。第一に、民間銀行の1行が幹事行となり、TD上のユーザー間送金と幹事行内におけるTD上の銀行間決済を同時に行うTD幹事行方式、第二に、TD上のユーザー間送金に関する銀行間決済を、SCを活用して行うTD-SC連携方式です。それらに加えて、TDの銀行間決済を、既存の決済システムに連携する方式も検討していきます。

（※）オンチェーン（On-chain）：ブロックチェーン上で実行・記録される高速・低コストの取引

以 上